

# 天竜川鷺流峡復活プロジェクト

調査団体名	: 天竜川鷺流峡復活プロジェクト	団体代表者名	: 曾根原宗夫
設立年	: 2015年6月	対応してくれた人	: 曾根原宗夫 (同PJ代表&信南交通㈱) 地域観光事業部 企画課長・船頭
団体URL	: <a href="https://ja-jp.facebook.com/fukkatugaryuukyou/">https://ja-jp.facebook.com/fukkatugaryuukyou/</a>	調査員	: 近藤 朗、曾我部行子、浜口美穂
活動拠点	: 長野県飯田市 天竜川鷺流峡	レポート作成者	: 浜口美穂
取材日	: 2019年 2月20日～21日		

## 活動内容

### 1 きっかけは「ゴミの不法投棄」

信南交通(株)(当時は天竜舟下り(株))が運航する天竜舟下りは、天竜川の弁天港から時又港まで約30分の行程。そのメインとなるのが渓谷「鷺流峡(がりゅうきょう)」。しかし、兩岸は不法投棄のゴミだらけ。竹林は密生して荒れ放題。そこで立ち上がったのが舟下りの船頭たち！ 2013年、有志数人で竹を伐り始めた。



密生して川まで垂れ下がる竹林

2 伐った竹をどうしよう…舟下りのルーツは筏！2013年6月「天竜イカダ祭り」を実施「竹を伐る」と書いて筏(いかだ)。もともと天竜川には伐り出した材木を筏にして流して運んだ物流の歴史がある。それに倣い、伐り出した竹を筏にし、川を下ることによって竹林整備をPRした。「竹を使っていろいろ楽しいことができる。そのためにも竹を伐ろう」と発信。竹筏は現在も夏のイベントとして定着。



### 3 古くなって割れた筏の竹をどうしよう…エネルギー活用！

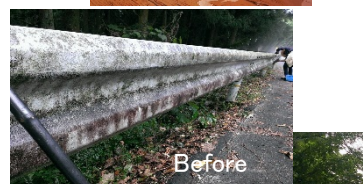
2013年、「阿智村山づくりの会」と連携し、筏に使った竹をボイラーの燃料にする取り組みを実施。翌年には天竜舟下り(株)が(株)モキ製作所の竹ボイラーを導入。湯船(まさに舟の形)に湯を沸かし、足湯として利用。冬の竹林伐採作業の後や竹筏下りの後に足湯で温まっている。

現在、竹も燃やせる薪ストーブ(モキ製作所)の代理店にもなっている。竹は燃烧カロリーが高く(灯油18リットル=竹3本)、繁殖力も強いので、いわば「枯渇することのない油田！」。



### 4 竹の伐採にはマンパワーが必要…2015年6月に地域住民と一緒に「天竜川鷺流峡復活プロジェクト」設立！

市役所の地域センターである「竜丘(たつおか)自治振興センター」に話をもちかけ、竜丘地域自治会と一緒に活動することに。事務局は同センターが担っている。



### 5 まずはガードレール磨き

ゴミの不法投棄を防ぐために竹を伐るけれど、ガードレールが汚ければ意味がない。亀の子たわしとバケツを持って人海戦術でガードレールはピカピカに。

### 6 竹林伐採バスターズ始動！

毎年11月から2月頃まで伐採活動を実施。2015年度は、林野庁の森林・山村多面的機能発揮対策交付金を活用。現在は地域外からの参加もあり、登録者は60人くらい。

### 7 竹で遊ぶ

竹筏下り、終わった後は足湯で温まる。

### 8 伐採後明るくなった竹林には長い間眠っていたゴミや倒木が…NPO法人

「greenbird」と連携して、ゴミ・倒木の運び出し&薪割り体験

倒木も薪としてエネルギーに。50年前の空き缶などお宝ゴミも発見。



まるで竹の檻の中！急斜面での伐採作業！

### 9 美味しく食べて竹林整備

竹網バーベキュー、**バンブークーヘン**(竹を芯にして作るバームクーヘン)、竹筒ご飯 etc.。すべてエネルギーは竹炭！ 竹炭作りにはモキ製作所の無煙炭化器が活躍。



**10 伐採する幼竹でメンマ作りに挑戦！・・・「天竜いなちく」の誕生！**

せっかく竹を伐っても春先にはニョキニョキ出てくるタケノコ。何とかしたい！と、2016年に福岡県の糸島コミュニティビジネス研究会を主宰する日高栄治さんを講師に招き、まずはメンマ作りの学習会を開催。その年、阿智村の企業「あちの里」が同プロジェクトの幼竹を使ったメンマを製品化。2017年には、地元・長野原の加工グループ「笑ったり寄ったり(にったりよったり)」(耕作放棄地で野菜を作って加工している女性グループ)と共にメンマを商品化。地域の人々が作って販売することで、地域にお金が落ち、活動資金となって継続が可能になる。



**11 全国に広めよう！・・・2017年12月「純国産メンマプロジェクト」キックオフ**

竹林整備の一環としてメンマ作りを普及させようと、曾根原さんが呼びかけて京都で開催。22都府県から57名が参加した。



長野原 竹宵の会Facebookより。  
2018年5月「100万人のキャンドルナイトin南信州」で展示

**12 竹灯籠作り・・・長野原 竹宵の会が誕生！**

地域食材を使う店などに赤提灯代わりに竹灯籠を置いて、地域づくりの一環に。時又灯籠流しなど、様々なお祭りやイベントでも展示。横浜の商店街からも招かれて展示を行い、好評だった。今では注文が殺到し、竹が足りない状況に。

**13 どんどん広がる竹の可能性！「スーパーアチチ君」**

竹の空洞がもったいないと、中にも竹を詰めて燃焼カロリーをさらにアップ！薪ストーブに使うと温かく、1本で50分持つ。



**14 次世代につなげよう！・・・地元・竜丘小学校、飯田OIDE長姫高校と一緒に活動**

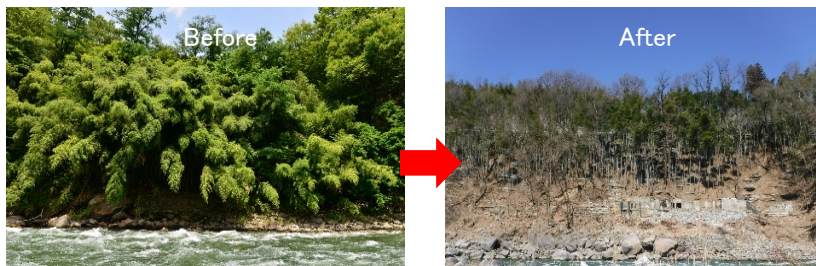
竜丘小学校との連携のきっかけは、5年前、曾根原さんが出演したテレビ番組を見た先生が「地元こんな活動があるならぜひ子どもたちに体験させたい」と思い小学校側からオファーがあった。5年生から6年生にかけて1年を通して、竹の伐採、竹灯籠作り、竹筏遊び、竹炭作りなどを行っている。2018年10月には子どもたちが収穫した幼竹で作ったメンマを子どもたち自身が農協の直売店で対面販売。チラシやPRグッズも子どもたちが作成した。(続きの感動秘話は、次頁の別枠で紹介)

高校生とは、天竜いなちくを使った商品開発も行い、「いなちくまん」が完成！ 机と椅子を天竜舟下りの港や舟に持ち出し、青空教室も開催した。



竜丘小学校6年生。左から時計回りに「幼竹の伐採」「竹灯籠作り」「学校のプールで竹筏を作り、筏レースを開催」「メンマを対面販売」「メンマ販売のPRも工夫を凝らして」「無煙炭化器で竹炭作り。炭は親子レクリエーションのバーベキューに使用した」

飯田OIDE長姫高校。上から「竹林の伐採活動」「いなちくまん」「青空教室」



昭和36年に大水で流された温泉宿の石垣・基礎が見えるようになった



地元の古老も存在を知らなかった樹齢150年のエドヒガンザクラが現れた！  
根元から幹が4つに分かれているので、四つ葉のクローバーにちなんで「しあわせ桜」と呼ばれるように



- 長野県公式Instagramで鶯流峡が「とっておき絶景スポット6選」(2018・秋の信州)に選ばれた。
- 「サザエさん」のオープニングに鶯流峡が登場！

地域コミュニティづくり・・・地域と竜丘小の子どもたちとの連携・感動秘話

●子どもたちが自主企画「つけ麺感謝の会」でサプライズ！

自ら収穫した幼竹を原料にしたメンマを子どもたちが対面販売し、30万円を売り上げた。その売上金を何に使うかを子どもたちが検討し、天竜川鶯流峡復活プロジェクトメンバー・地域の人を招き、総勢80人で「つけ麺感謝の会」を開催。経費を差し引いた残りを同プロジェクトに寄付した。売上金の小銭を入れた大きな袋を贈呈された曾根原さんをはじめ、メンバーは感涙で言葉が出なかったという。



●竜丘自治振興センターが身近に

同プロジェクトの事務局を担う竜丘自治振興センターは竜丘小学校の向かいにある。プロジェクトの活動を通じてセンター長ともふれあうようになり、子どもたちがセンターに遊びに行くようになった。



学校のプールで竹筏を作って筏レース。竜丘自治振興センターのセンター長(行政職員)も参加。楽しく筏に乗っていたもの、お決まりの展開でプール内にどぼ～ん！  
体を張った行政マンの仕事っぷり?!により、子どもたちとの距離はさらに縮まった

●地域で育つ子どもたち。卒業式の背景は・・・

卒業式といえば壇上の背景は校旗と日の丸が定番。しかし、5～6年生の1年間、天竜川鶯流峡復活プロジェクトで活動した竜丘小の6年生は、校長に直談判して、自分たちで制作した作品を背景に。竹林から舟で天竜川を漕ぎ出し、向かう先に中学校が描かれている。卒業式に招かれた曾根原さんはこの絵を見てまた感涙。

同プロジェクトからは卒業祝いに子どもたちを舟下りに招待。子どもたちが舟の中から自分たちが竹を伐った現場を見上げたら・・・メンバーが手を振って「卒業おめでとう！」のサプライズ。



会のモットー(何を大切にしているか)

楽しくなければ続かない。

## 設立から現在に至るまで変化したこと

常に変化し続けている。毎年、想像もしていなかった新しいことが始まる。

## 連携している団体・専門家・自治体など

飯田市、長野県、(株)モキ製作所、NPO法人greenbird、長野原加工グループ「笑ったり寄ったり」、長野原竹宵の会、あちの里、丸正稲垣、純国産メンマプロジェクト、竹の会 夢里人(むりと)、竜丘小学校、飯田OIDE長姫高校、長野県教育委員会、他多数

## チームオリジナルの質問

＜質問内容＞地元の自治会と一緒に活動することは、最初からうまくいったのか？

＜答え＞

最初は企業の人間が来たということで警戒されたが、来る日も来る日も現場でゴミ拾いや竹伐りをする中で、地元で活動が認知され、すんなりと話が進んでいった。当事者である地元も巻き込まないと継続性がない。「ゴミの不法投棄」と「放置竹林」は地域と天竜舟下りの共通の課題。連携することで、地域にとっても天竜舟下りにとっても下記のような効果が見込まれる。

活動現場の地主さんとは、事務局である役所が間に入って、協定書を交わしてから活動している。

### 【地域(竜丘地域自治会)における効果】

- 不法投棄ゼロの実現
- 景観及び道路環境の維持
- 新たな担い手の創出・育成
- 次世代のための環境教育

### 【事業者(天竜舟下り)における効果】

- 景観維持による観光客増加
- 観光資源・サービスの創出による新たなファン層の拡大
- 事業者の魅力アップ

## チームオリジナルの質問

＜質問内容＞メンマ作りの工夫は？

＜答え＞

1~2日ずれただけで硬くなってしまいますので、収穫適期は短い。タケノコが2メートルほどに伸びた時、わざと切れない鎌(砥石に刃を当てて切れなくする)を使ってさくっと切れるものを収穫する。切ってすぐに味見。場所によって味が違うという。「甘くて美味しいですよ」と曾根原さん。

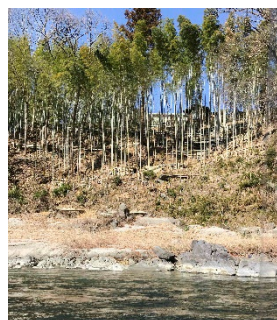
ゆがいて塩漬けし、1か月間乳酸発酵、塩抜きまでは他の所と一緒にだが、味付けにはこだわりが。薄味にして竹そのものの味を味わってほしいと思っている。もともと漬物のノウハウがあった地域の女性たちだからこそできた味。冬の漬物の時期が終わり、空いた樽がメンマに活用できる。

2018年6月15日に開催された長野県「おいしい部局長会議」(\*)で天竜いなちくが紹介されるなど、長野県の推奨商品に。

\* おいしい部局長会議・・・知事、副知事、各部局長が信州の農産物などの特産品の情報を共有し、PRや販売促進につなげるため、試食を行い、信州のおいしさを自ら体感し、発信していく場として開催されている。

## その他、伝えたいこと

千客万来。興味を持った人は飛び込んでほしい。



←舟から見たプロジェクトの現場。急斜面であることがよく分かる。竹を伐って横に寝かせた「たな」を作っているのは、作業の足場確保と、土の流出を防ぐため



曾根原さん(右)と天竜舟下り。冬はこたつが用意されている



若い船頭さん(左)、曾根原さん(右)と一緒に足湯舟の前で記念撮影